

## 第2回 全体研究会

日 時：2015年11月6日（金）18：00～20：00

テーマ：「**鐵路教育与中国社会**」

報告者：何 雲庵（西南交通大学政治学院教授）

司 会：高橋伸夫（慶應義塾大学）

場 所：大学院校舎8階 東アジア研究所 共同研究室1

使用言語：中国語

### 【概要】

報告者は、この3年間、西南交通大学の校史の編纂に携わってきた人物である。今回は編纂の作業を通じて得られた発見や考察を紹介していただくとともに、西南交通大学の校史の中に見られる中国高等教育の普遍的問題についても議論された。

まず、西南交通大学の度重なる移転と校名変更の歴史が紹介された。創立からまもなく120年を迎える同大学は、これまで18回の移転と校名変更を経験した。これは教育界の側が望んだものではなく、抗日戦争や文化大革命の影響を受けてのものであり、中国の政治・社会の激動を反映したものである。次に、同大学の教育課程の変遷が紹介された。1930年代の交通大学のカリキュラムを見てみると、中国文化に関する科目がどんどん減らされていった。これは伝統と近代化の関係をどう捉えるかという五四運動以来の中国が直面してきた問題を反映したものであることが指摘された。そして、清末民初の時期において工学・技術教育の方面では日本の影響がきわめて小さいことが指摘された。

また、西南交通大学と中国鉄道の関係についても論じ、同大学が中国の鉄道交通発展に大きく貢献していることが紹介された。参加者との質疑応答では、インドネシアへの高速鉄道輸出をめぐる日中の競合関係や中国高速鉄道の安全性の問題について、議論がなされた。